

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 田中 宏和

本研究は日本・韓国と欧州 8 カ国の人口動態統計データを用い、職業階層別死亡率(男性)の分析を行うことで、これまでに報告のない日本・韓国と欧州の死亡率格差の国際比較について分析した。欧州に比べて職業階層別死亡率格差は日本と韓国で小さいか大きいかわ、また日本と韓国の職業階層別死亡率を欧州各国と対比することで日本と韓国の 2015 年までの過去 25 年の傾向の変化がどのような特徴をもつかについて検証しており、下記の結果を得ている。

1. 日本の職業階層別死亡率格差は日本で欧州・韓国に比べて絶対的指標(死亡率差)、相対的指標(死亡率比)とも小さい
2. 日本の 1995 年までの職業別死亡率格差は欧州に比べて小さい状態にあったのち、2000 年以降上級熟練労働者(管理職・専門職)の死亡率が高い状態が続いた。したがって本研究では欧州との直接的な比較を行うことで 1995 年において非熟練労働者の死亡率が欧州各国より低く、上級熟練労働者(管理職・専門職)と非熟練労働者の死亡率差が欧州と比べて小さいという特徴を背景に、1990 年代後半に上級熟練労働者(管理職・専門職)の死亡率が大きく上昇したことで逆転現象につながったことが明らかになった
3. 韓国では下級熟練労働者の死亡率が日本・欧州に比べて特に高いという特徴があったが、2015 年までに下級熟練労働者と非熟練労働者の死亡率が大きく低下したことに加えて、2000 年代後半に上級熟練労働者(管理職・専門職)の死亡率上昇(上昇幅は日本の半分程度)が組み合わさった結果、上級熟練労働者(管理職・専門職)と非熟練労働者の逆転現象が起こっていた
4. 欧州では過去 25 年間に職業階層別死亡率の全体的な低下傾向が観察されたものの、非熟練労働者の死亡率低下割合は小さく、上級熟練労働者の死亡率が低く非熟練労働者の死亡率が高いという職業階層別死亡率格差は依然として残っている

以上、本研究により男性の職業階層別死亡率格差の傾向は日本・韓国と欧州で大きく異なることが示され、この傾向の出現には日本と韓国において経済危機期の上級熟練労働

者の死亡率上昇が関連していることが明らかになった。本研究は日本・韓国と欧州の双方における健康格差の特徴を明らかにし、その是正のために重要な貢献をなすものと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。